

改訂版

不物のみちへ



目次

鳥居について	6	9
八幡形鳥居		
神明鳥居		
神前灯籠と台石	6	9
神社華表		10
神社手水鉢		11
玉垣		12
神前用不浄除	13	14
石祠		15
石獅・狛犬	16	19
狛犬台石	20	23
狐台石		24
神灯形		25
神明形灯籠		26
丸形墓前灯籠		27
石碑	28	37
五輪塔梵字	38	39
宝篋印塔		40

墓相石碑		41
清滝徳源院宝篋印塔		42
郵便受	43	45
挽臼	46	49
灯籠		50
春日形		51
六角雪見形		52
善導寺形		53
濡鷺形		54
利久形		55
泰平形		56
蘭溪形		57
龍虎蘭溪形		58
五重塔		59
十三層塔	60	62
奥の院形と十二支	63	69
奥の院地輪側面彫刻	70	71
招福灯籠	72	74
庚申灯籠		75
宮立・折部形の折仲形		76

御室形		77
青蓮院蓮華寺形		78
道風形		79
朝鮮灯籠		80
織部形(北野天満宮・修学院)		81
水燈形		82
角蓮華寺形		83
神・仏・前燈		84
桂離宮各種灯籠		85
修学院離宮袖形		86
泉涌寺形雪見		87
勧修寺		88
葛屋形		89
琴柱形		90
御間形		91
太閤形		92
聚楽形		93
多宝塔		94
双獅子石灯		95
当麻寺形		96

柚ノ木形		97
平等院形		98
橘寺石灯		99
般若寺石灯		100
河桁御河辺神社石灯		101
法華寺形		102
手水鉢について		103
袈裟形		104
露結の手水鉢		105
銀閣寺形		106
各種水鉢		107
知足・布泉・鉄鉢・菊形・露結・家紋		113
灯籠部分・蓮の葉・月見形二種		114
石碑類部分		115
仏像の種々		121
六地藏		122
弘法大師八十八ヶ所		123
観音像由来		124
聖観音・白衣観音		125
不動明王		126
		127
		128

序

石材加工業に従事して四十余年、修業時代は一つの石を、形ちづくることで一生懸命で親から教へられたことを鵜のみして十年は知らずに暮れてしまった。

やがて独自に石作りをするようになり、親から教へられた手法や先輩又は周囲の同業者が代々踏襲している技法等を加味して、自己流に形成したものを、後進の指導やら、顧客の需要に応じて今日迄石作りを続けているものであるが、業界人として常々何か胸中意の満たぬものを感じているのであります。

こうしたなかに古来よりの石造物の遺品に活路を求めて、自己流に判じたことを、製作加工の足がかりにして、今日に及んでいるのである、元来石製品の加工手引書と云うものは非常に少く、石製品全般に渡って纏めたものは皆無に等しく、従つて地方地

方に傳承されている方法を親から子へ、親方から弟子へと口傳による実技指導によつてカンとコツを仕込まれるのであるが、教へる方も学ぶものも、人の記憶力には限度があるので、補助的な図解の指導も望ましいのであるが、石材加工の規矩と云うものは市場に流布されておらず、それがためお互に手さぐりの状態であつて、これは営業上にも通じることであつて、商談を進める上において図で表示すると理解が早まるものであつて、私は長年この方法を辿つて來たものが蓄積されたので、その内から一般的に共通性のあるものを纏めてみたのであります。

従つて図中の解説もあくまで地方の一石屋の製作加工の歩みでありますので灯籠の中台を受けと称したり、竿石を柱と表示した如く、一石屋流の解説をしてあります矣を諒とせられ、一つの目安として製作加工の上に営業上にと伴侶となれば望外の幸いと存じます。

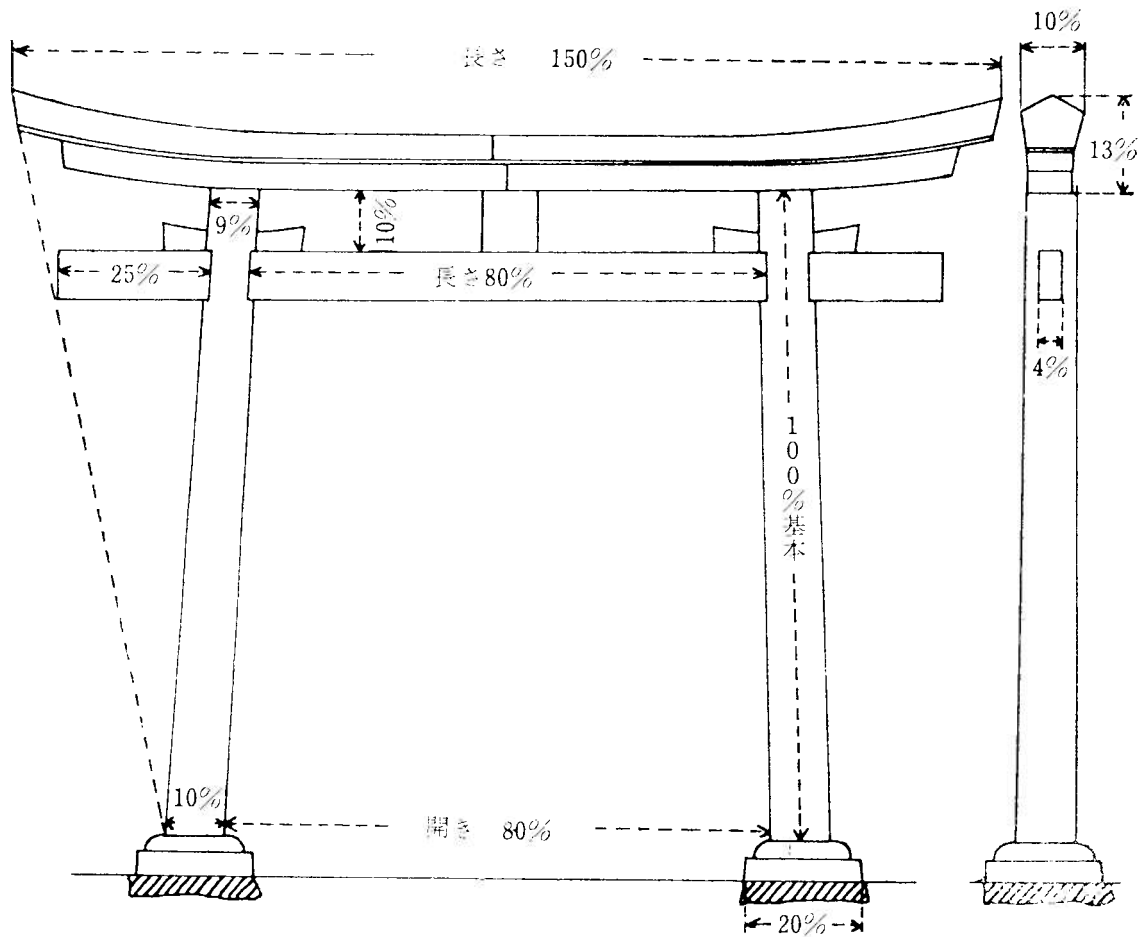
鳥居について

鳥居の名称、形は種々あつて一口に、明神鳥居、稻荷鳥居、山王鳥居、両部鳥居等々が、大工の規矩に、あげられているが、元来これは木製のものが、主体であつて一応の参考にはなるが、石製品の場合には製作技術と、経費の多寡で無理があるので、現今の石製品として通用しているのは八幡形（石清水八幡宮の明神形）と神明形（この神明も今石は丸が本来であるが経費の多寡で角が多く見受ける）の二通りである。

現今の鳥居は、神社の社頭又は社域の入口に建っているのが、通例となつてゐるが、これは明治維新の神仏分離の改革によつて、鳥居は神社の専有物の感があるが、神仏混合の時代には仏堂の前にも鳥居は建つてゐるのである。高野山に在る、古い大名の墓の入口には大方鳥居が建つてゐる、吉野山藏王堂の入口の銅製の鳥居は、奈良の大仏を鑄造したとき、余つた材料で建立し、西三度の兵火によつて再建されたのが（一四五〇年）現在のものである、その基礎となる亀腹の処は反花の蓮が出来ており恰も蓮華台の上に建つてゐるのであつて、これは明かに仏が主体と見受けられる、要するに鳥居とは地域の入口の門の役目であり、領域の境界の目ざしである。

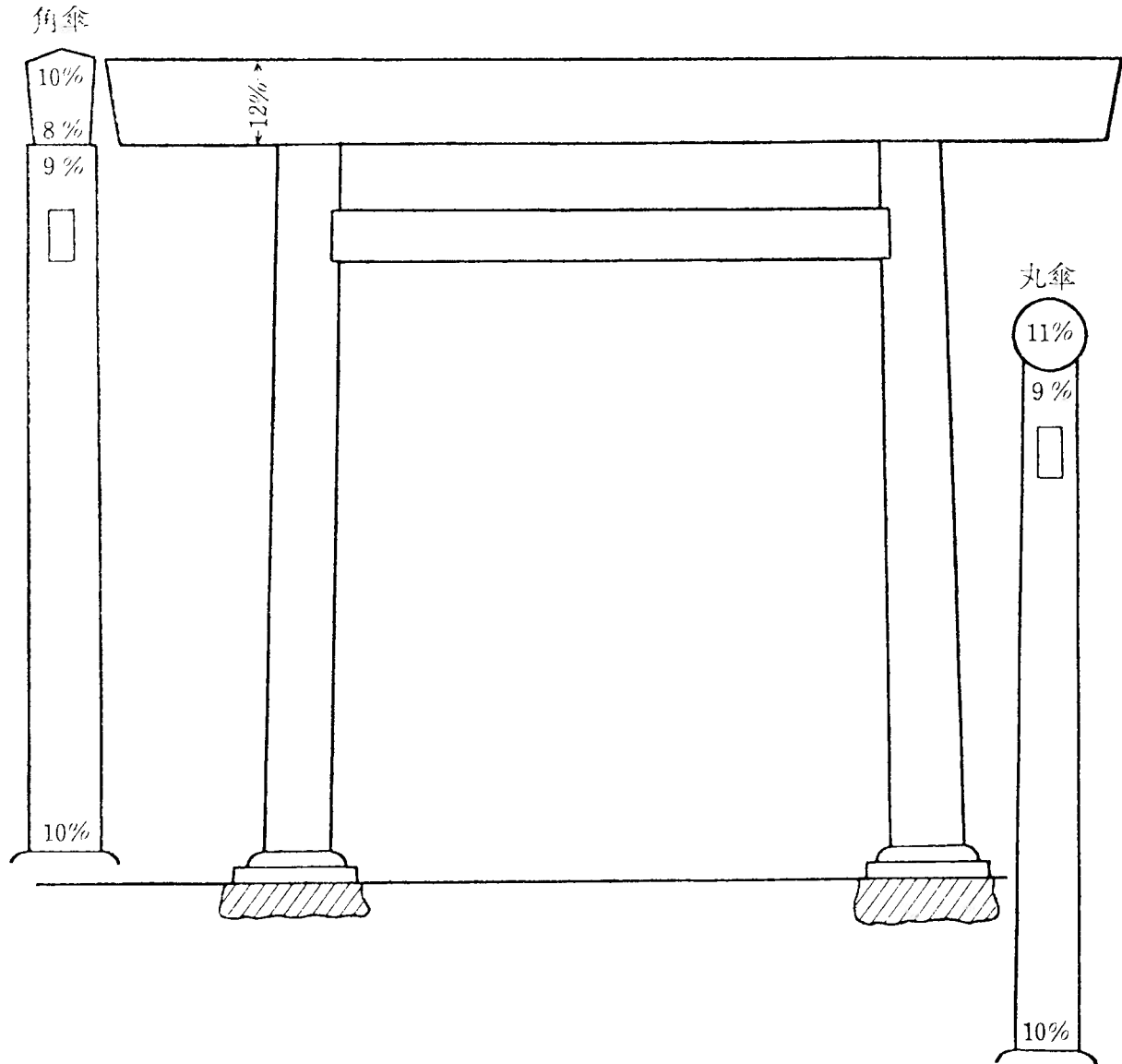
八幡形鳥居 1 丈寸法

	前 巾	奥 行	高	数
笠 石	7.5尺	1.0尺	1.3尺	2
柱	1.0丸	1.0丸	10.0	2
中 貫	8.0	0.4	0.8	1
外 貫	2.5	0.4	0.8	2
靴 石	2.0	2.0	1.0	2
額 塚	1.0	0.4	1.0	1
ツメ石	0.7	0.4	0.5	4



- ※ 鳥居壱基の才数の早出し方法は、柱1本才数の5倍強でよい。
- ※ 柱の傾斜は柱の径の半分又は $\frac{1}{3}$ がよい。
- ※ 八幡形の場合傘石は2本継ぎである、神明形の場合は1本であるから 大きな神明の時は傘石が長尺となるので材石入手に困難となることに留意すべきである。

神 明 鳥 居



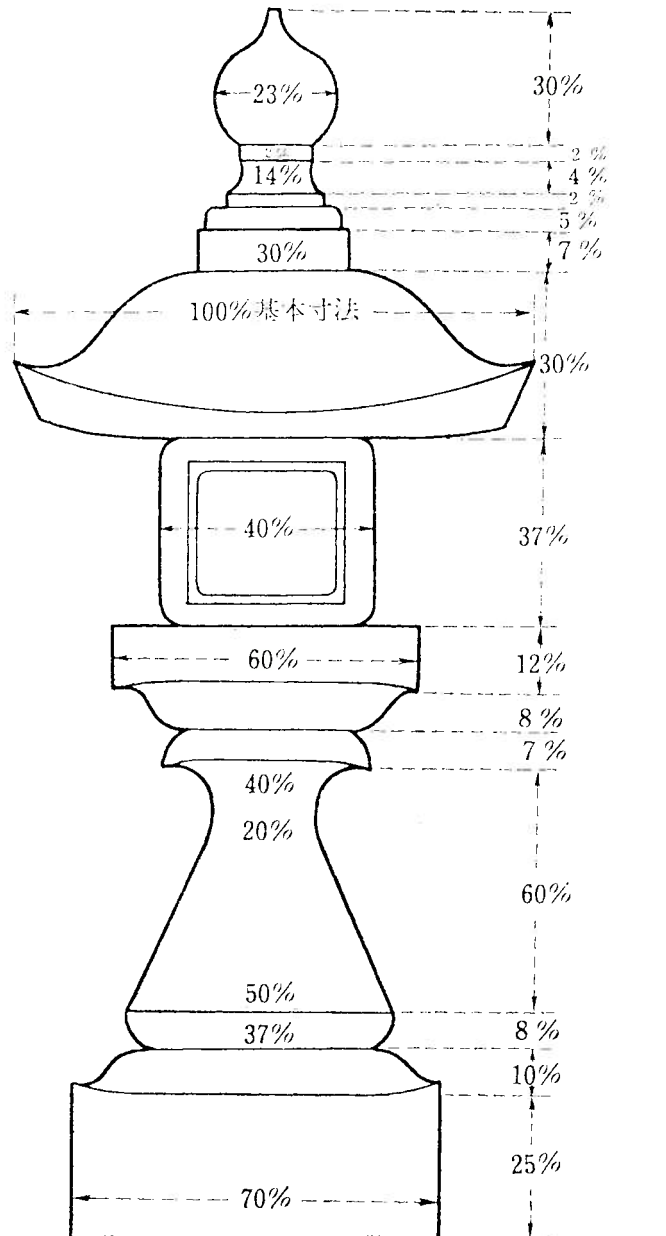
- ※ 傘の長さ、柱の太さ、長さ貫も八幡形と同様丸傘と角傘があるが経費の面で角の需用が多い。
- ※ 木製木割法では柱が垂直に立っているが、石造の場合柱の径の $\frac{1}{3}$ 程度内に柱が傾き合った方が、横ゆれの場合安定がある。
この図は $\frac{1}{3}$ 転びになっているが $\frac{1}{4}$ でもよい八幡の場合半転び $\frac{1}{2}$ が多い。
- ※ 神明型の場合は傘石一本通しである。

	径	高
玉	30%	50%
傘	100%	30%
火	40%	37%
受	60%	20%
柱	50%	60%
地	70%	35%

※ 総 高 232%

※ 各個々の細部の比率は傘の径 100%が基本である

※ 神前形も地方色にて特色もあるであろうが岡崎産地形とした、この形は一般に神前形として全国に普及している

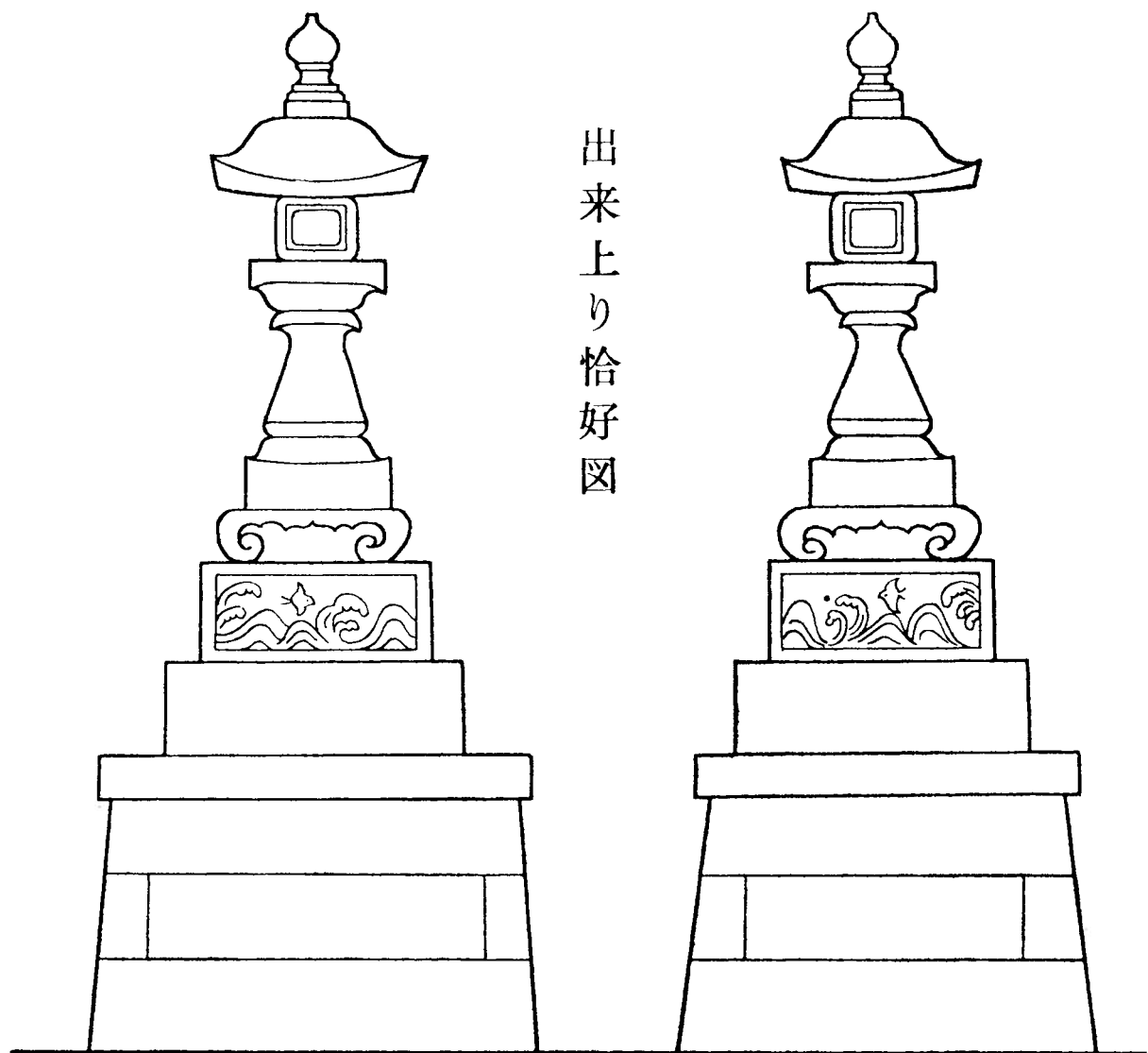


神前灯籠 比率寸法明細図 (三尺五寸 $\frac{1}{10}$ 図)

神前用台石適当寸法

	2 尺 用	2.5 尺 用	3 尺 用
猫 足	$\overset{\text{尺}}{\underset{\text{尺}}{\underset{\text{尺}}{1.9 \times 1.9 \times 0.6}}}$	$2.2 \times 2.2 \times 0.7$	$2.5 \times 2.5 \times 0.8$
上 台	$2.2 \times 2.2 \times 1.0$	$2.5 \times 2.5 \times 1.1$	$2.8 \times 2.8 \times 1.1$
四 ツ 組 台 下	$2.8 \times 2.8 \times 5/8$	$3.2 \times 3.2 \times 6/10$	$3.5 \times 3.5 \times 6/10$
四 ツ 組 コ ピ ン	$3.8 \times 3.8 \times 7/4$	$4.2 \times 4.2 \times 7/4$	$4.5 \times 4.5 \times 8/5$
石 垣	上 $3.5 \times 4/8$ 下 4.0	上 $3.9 \times 5/8$ 下 4.4	上 4.2 下

※ 従来はコーピン下は亀甲形の石垣石積が主であったが切削機時代に適応して下図の如く板石を利用した。

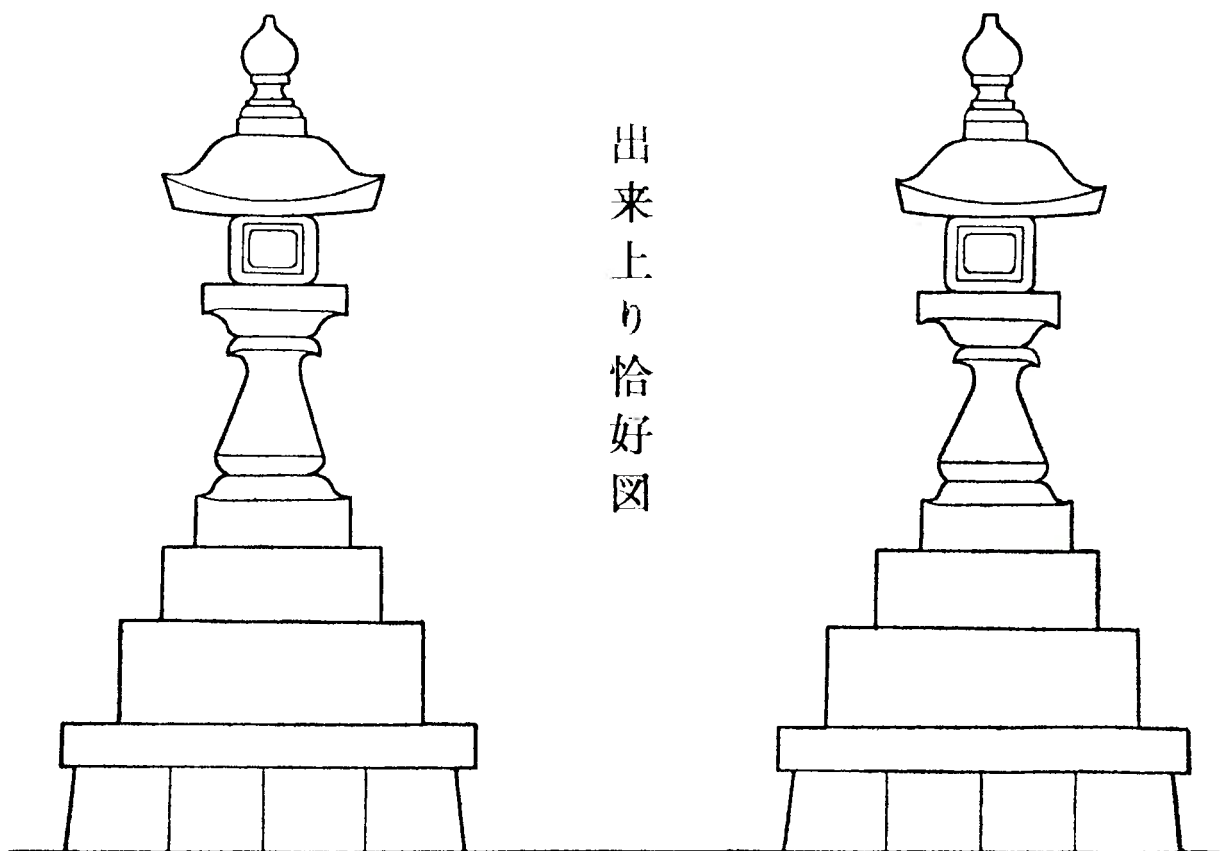


神前用台石適當寸法

	2 尺 用	2.5 尺 用	3 尺 用
上 台	$\overset{\text{尺}}{\underset{\text{尺}}{\underset{\text{尺}}{2.0 \times 2.0 \times 0.8}}}$	$2.4 \times 2.4 \times 0.9$	$2.7 \times 2.7 \times 1.0$
中 台	$2.7 \times 2.7 \times 5/9$	$3.2 \times 3.0 \times 5/10$	$3.5 \times 3.5 \times 5/10$
コービン	$3.6 \times 3.6 \times 6/4$	$4.2 \times 4.2 \times 6/4$	$4.6 \times 4.6 \times 7/5$
土 台	$\overset{\text{上}}{\underset{\text{下}}{3.3 \times 3.3 \times 1.0}} \quad \overset{\text{上}}{\underset{\text{下}}{3.6 \times 3.6 \times 1.0}}$	$\overset{\text{上}}{\underset{\text{下}}{3.9 \times 3.9 \times 1.0}} \quad \overset{\text{上}}{\underset{\text{下}}{4.2 \times 4.2 \times 1.0}}$	$\overset{\text{上}}{\underset{\text{下}}{4.3 \times 4.3 \times 1.0}} \quad \overset{\text{上}}{\underset{\text{下}}{4.6 \times 4.6 \times 1.0}}$

※ 中台は角の寸法が大きくなると才数が多くなるので四ツ組とした。

※ 土台は、間知並べにしてあるが切削機の都合で四ツ石組の方が据付けが早い。

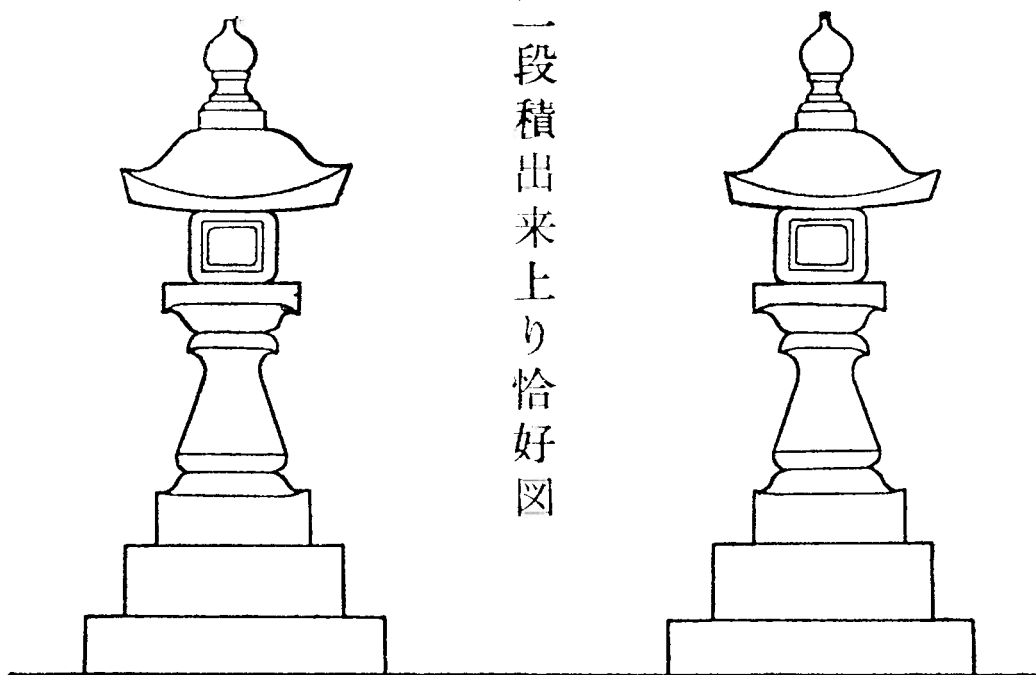


神前用台石適當寸法

	2 尺 用	2.5 尺 用	3 尺 用
上 台	尺 尺 尺 2.0×2.0×0.8	2.4×2.5×1.0	2.7×2.7×1.0
四 下 ツ 組 台	2.7×2.7×5/5	3.2×3.2×5/6	3.5×3.5×5/8

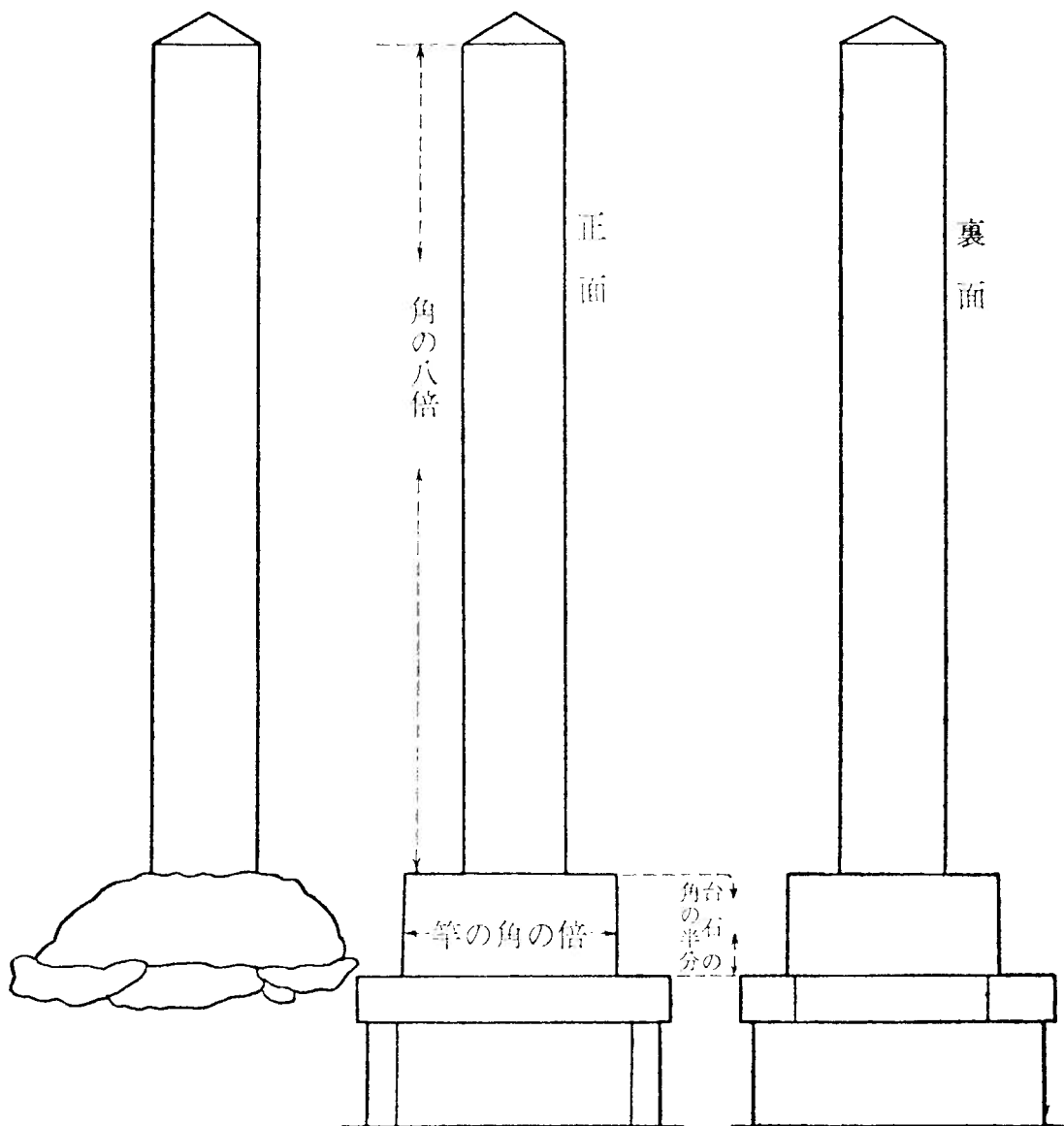
※ 四ツ組石は一応5寸石を利用してある
が、予算に応じて勘案する

台石二段積出来上り恰好図



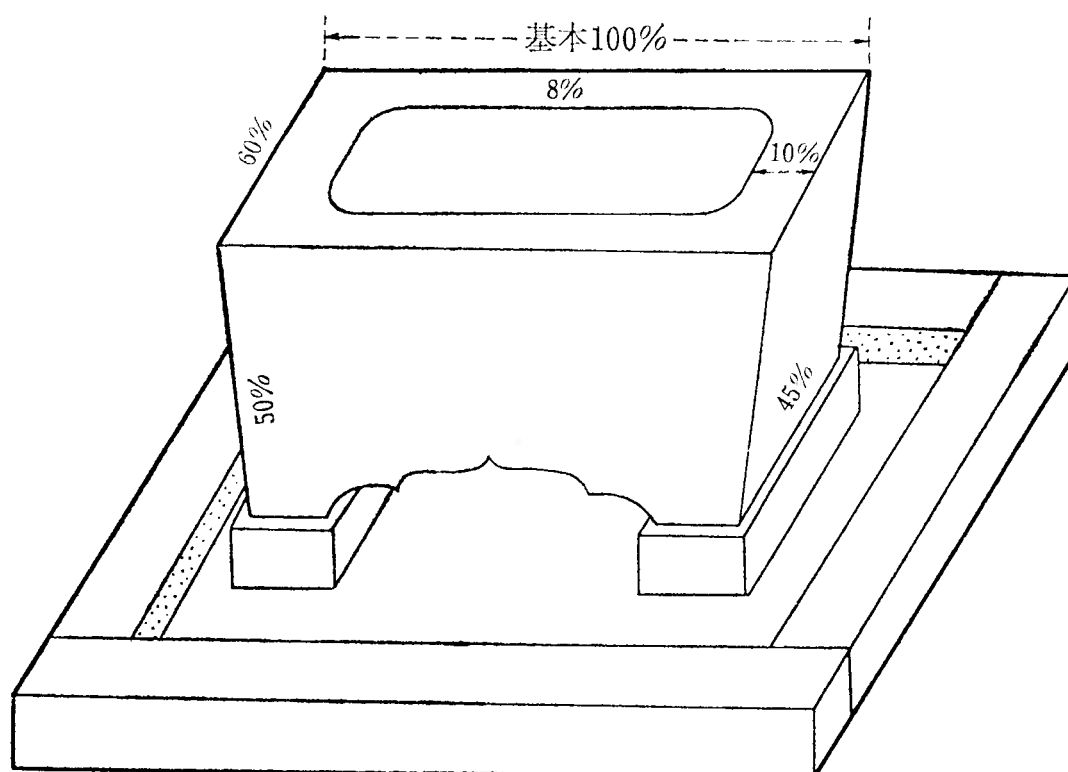
神社華表寸法比率

※ 社標の長さは旧来は角の10倍とされて大方が出来ていた。戦後は社格が廃止されたので社格の字が無くなったので8倍位が恰好がよい。



神社手洗鉢

目安寸法比率

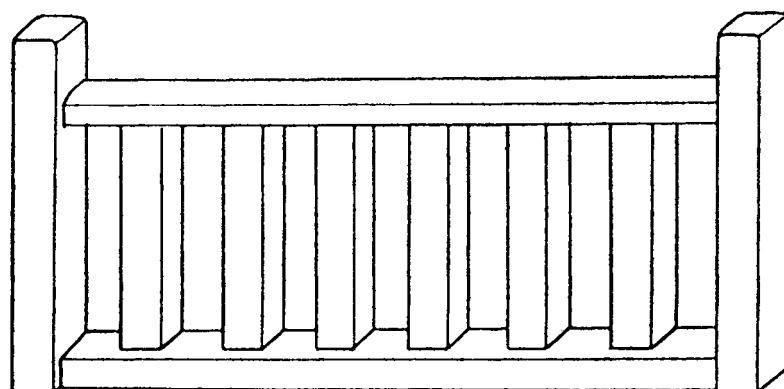
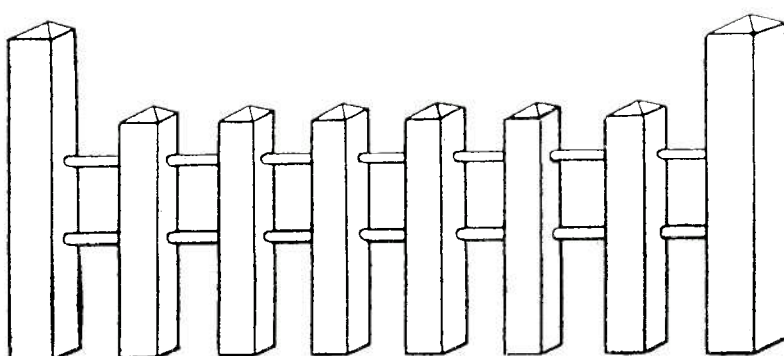
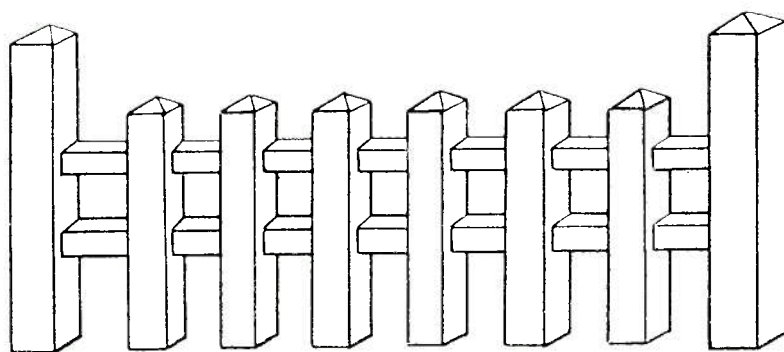


※ 上図は一応の基準であって要は参拝の折手洗いに人が立って動作をするために、不自由を感じぬ高さが大切であるから前巾の大きいのと小さい場合を考慮して高さを限定することに留意すべきである。

※ 側面から見た前、裏の傾斜は好みによって多少の相違が生じるし、刻字の場面の広狭も念頭に入れるべきである。

玉 垣 の 種 類

- ※ 1間通しの中柱と中柱の間の小柱の数は6本がよい。（小柱4寸の場合）
- ※ 古い墓域で四十九品の形式の玉垣は下図の通りであるが現在は少い。

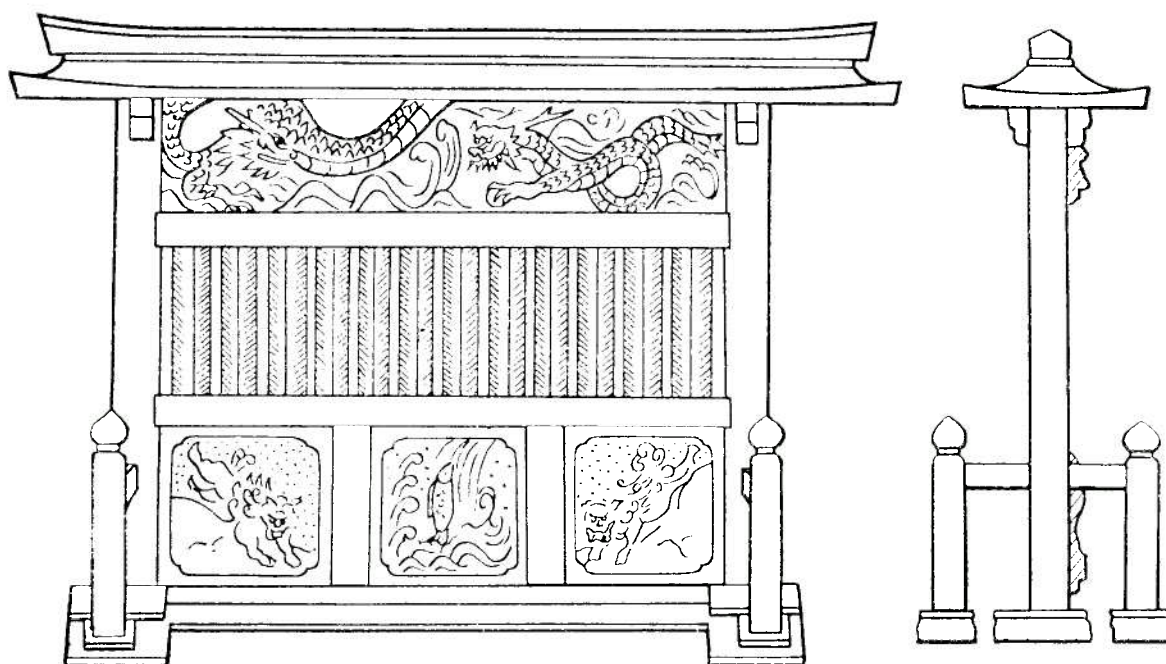


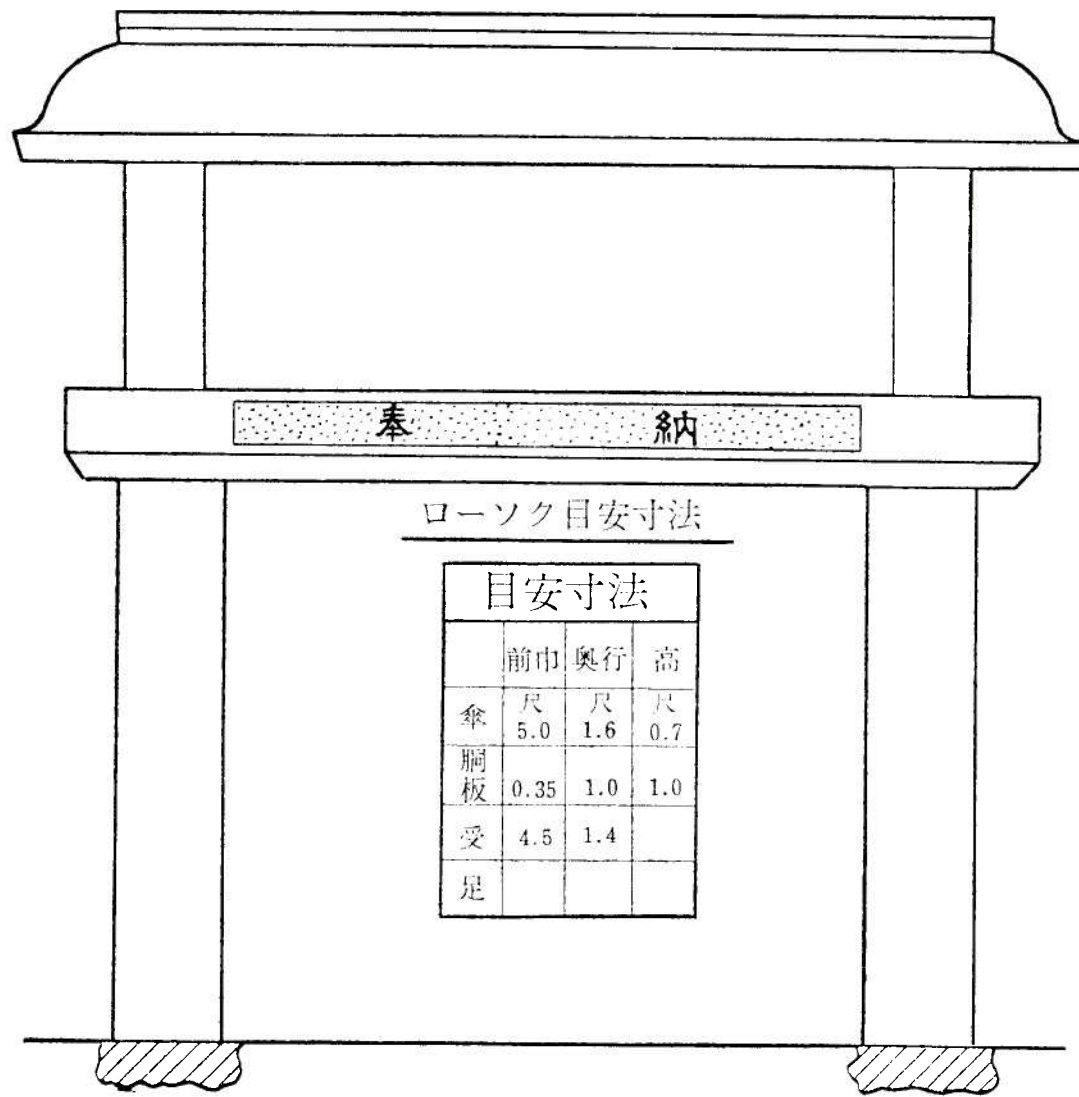
- ※ 現在の玉垣は神社の境域用に多く使用され墓所の場合は板石が多く利用されている。

神 前 用 不 浄 除

品 名	長	横	高	数	品 名	長	横	高	数
笠 石	12.00 ^尺	1.80 ^尺	1.00 ^尺	1	親 柱 靴 石	1.60 ^尺	1.60 ^尺	0.80 ^尺	2
親 柱	0.80 ^尺	0.80 ^尺	7.00 ^尺	2	控 柱	0.50 ^尺	0.50 ^尺	3.00 ^尺	4
欄 間	8.60	0.40	1.10	1	控 柱 靴 石	1.10	1.10	0.60	4
長 押	8.60	0.60	0.50	1	控柱用貫石	1.40	0.30	0.50	4
透し用小柱	0.40	0.40	1.60	12	傘受用つめ石	1.40	0.60	0.60	4
小柱受横石	8.60	0.60	0.50	1	※ 一応の日安寸法を記入した。仕事の大小、 予算に従って勘案する。				
彫刻羽目板	2.50	2.50	0.40	3					
羽目板用中柱	0.55	0.55	2.50	2					
羽目板受土台	7.60	0.60	0.40	1					

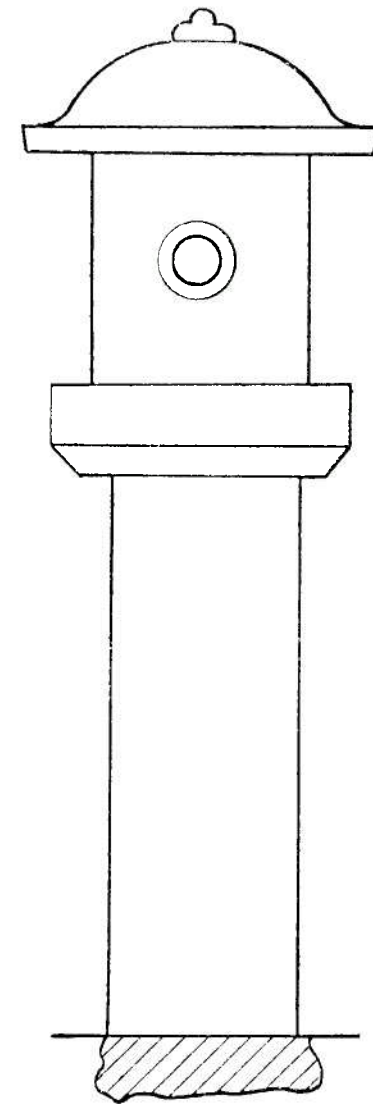
出 来 上 り 恰 好 図



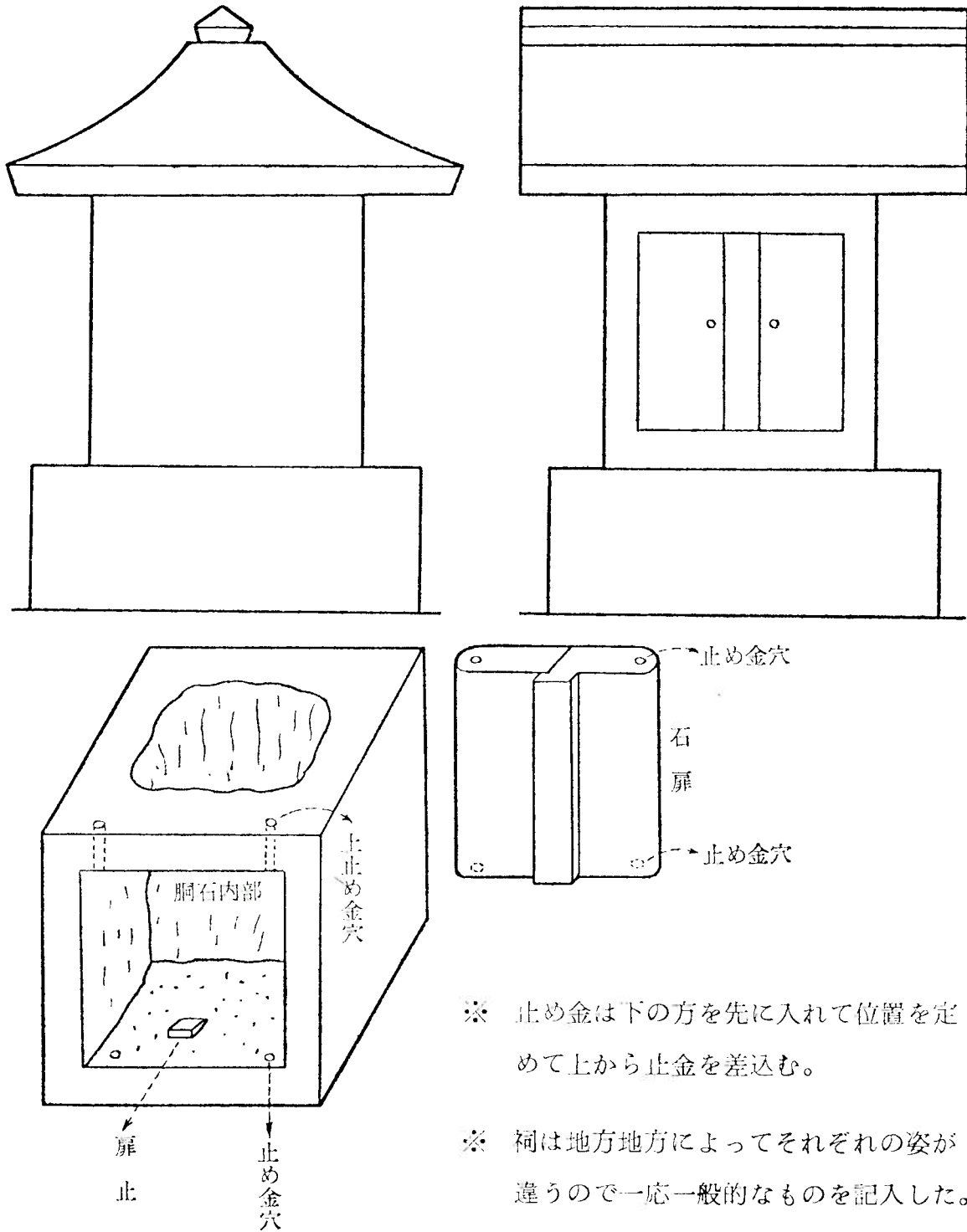


ローソク目安寸法

目安寸法			
	前巾	奥行	高
	尺	尺	尺
傘	5.0	1.6	0.7
胴板	0.35	1.0	1.0
受	4.5	1.4	
足			



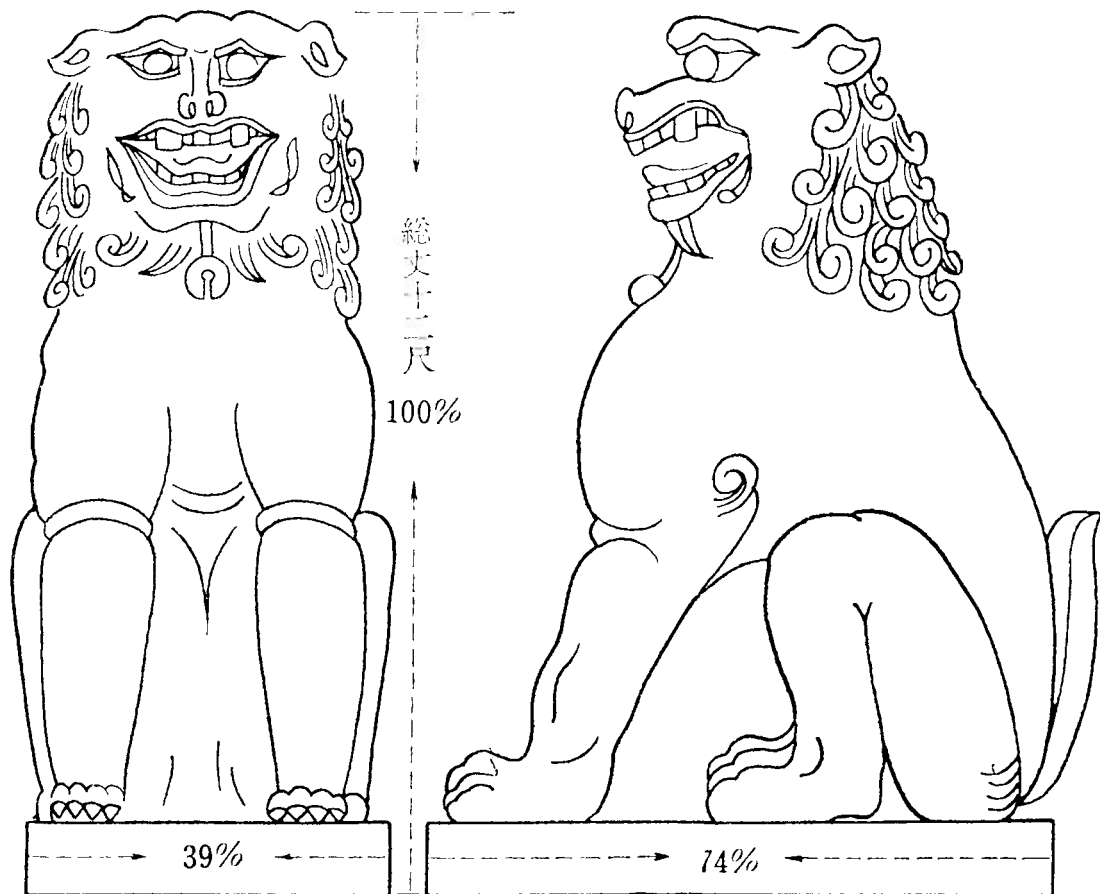
石 祠 $\frac{1}{10}$ 恰 好 図



※ 止め金は下の方を先に入れて位置を定めて上から止金を差込む。

※ 祠は地方地方によってそれぞれの姿が違うので一応一般的なものを入した。

唐高宗乾陵石獅



※ 上図古代の石獅のスケッチ図を凝視するとき、現今の古式形と並形の狛犬の形に一つの共通点が発見される。

俗 称 古 式 形 狛 犬

※ 並形狛犬より寸法は若干大きい



兎付並形狛犬



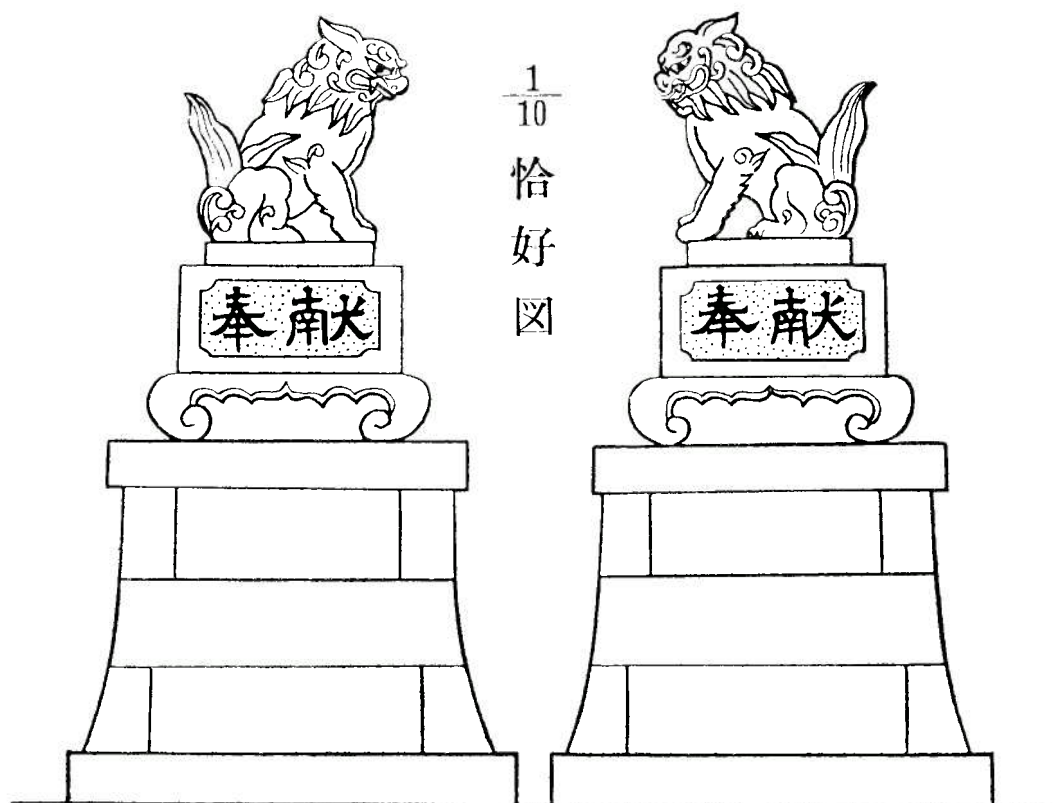
並 形 狛 犬



狛犬台石適當寸法一覽表

	2 尺	2.5 尺	3 尺
狛犬の台座寸法	1.4×0.7	1.7×0.8	2.1×1.0
上 台	2.0×1.3×1.0	2.4×1.5×1.2	2.9×1.8×1.3
猫 足 台	2.6×1.9×0.6	3.1×2.2×0.65	3.7×2.6×0.8
コーピン1枚石	3.2×2.5×0.5	3.8×2.9×0.5	4.5×3.4×0.6
板石段積石	5/8上 $\frac{2.9 \times 2.2 \times 2.4}{3.6 \times 2.9 \times 2.4}$	5/8上 $\frac{3.5 \times 2.6 \times 2.6}{4.2 \times 3.3 \times 2.6}$	6/9上 $\frac{4.2 \times 3.1 \times 2.7}{5.0 \times 3.9 \times 2.7}$
地 覆 石	4.2×3.5×7/4	4.9×4.0×8/4	5.8×4.7×8/4
総 高	6.7 尺	7.8 尺	8.8 尺

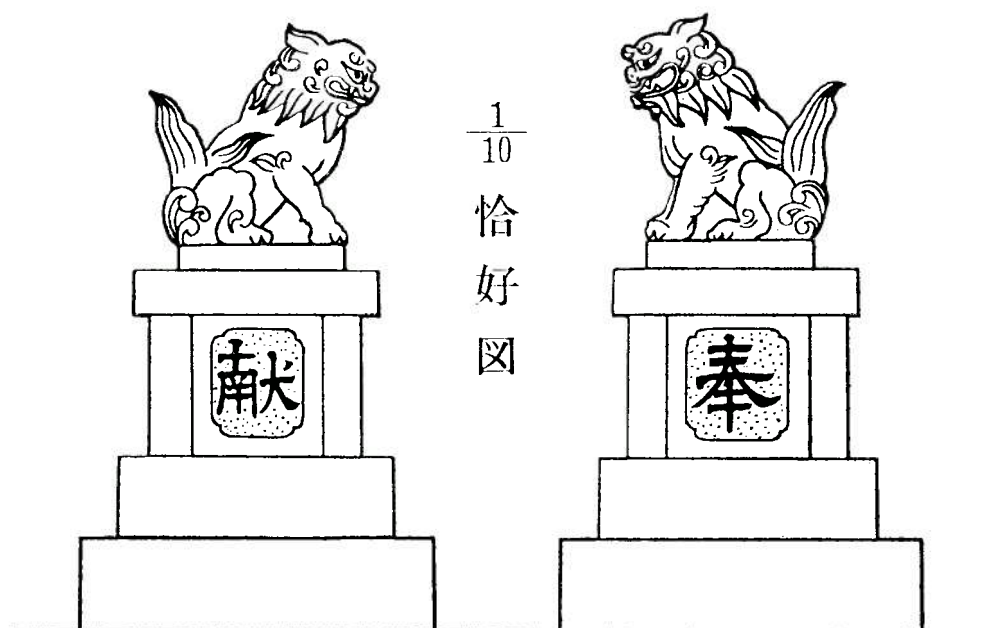
※ 犬の台座寸法は粗材と予算の都合で寸法の変更も可。



狛犬台石適当寸法一覧表

	2 尺	2.5 尺	3 尺
犬の台座寸法	1.4×0.7	1.7×0.8	2.1×1.0
上 台	2.2×1.5×0.4	2.6×1.7×0.5	3.1×2.0×0.6
胴 隅 立 石	0.5×0.5×1.3	0.55×0.55×1.5	0.6×0.6×1.8
胴 板 石	0.9×0.2×1.3	1.2×0.4×1.5	1.6×0.5×1.8
中 台	2.4×1.7×0.7	2.9×2.0×1.0	3.5×2.0×1.0
芝 台	3.0×2.3×5/8	3.6×2.7×5/8	4.3×3.0×5/10
総 高	5.3 尺	6.3 尺	7.4 尺

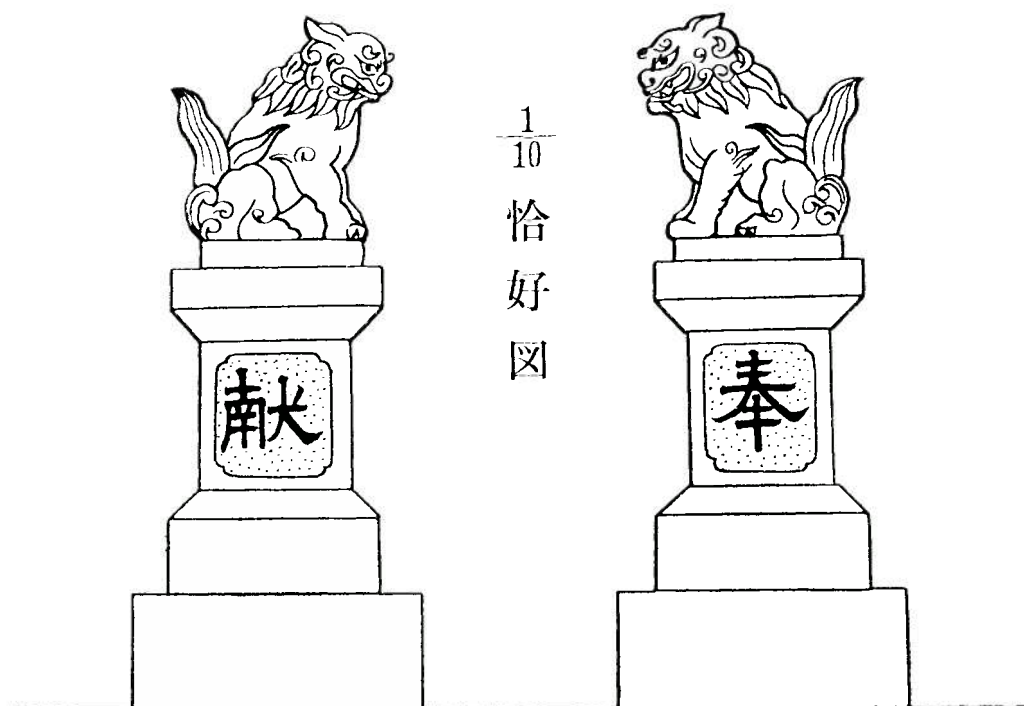
※ 胴の隅立石と板石は前裏を切出し作りにして、両横のみ板石にすると安全性がある。



狛犬台石適當寸法一覽表

	2 尺	2.5 尺	3 尺
犬の台座寸法	1.4×0.7	1.7×0.8	2.1×1.0
上 台	1.8×1.1×4.5	2.2×1.3×0.5	2.7×1.6×0.6
胴 石	1.4×0.7×1.5	1.7×0.8×1.8	2.1×1.0×2.2
下 台	1.9×1.2×0.8	2.3×1.4×1.0	2.8×1.7×1.0
芝 台	2.5×1.8×5/8	2.9×2.0×5/9	3.5×2.4×5/10
総 高	5.5 尺	6.7 尺	7.8 尺

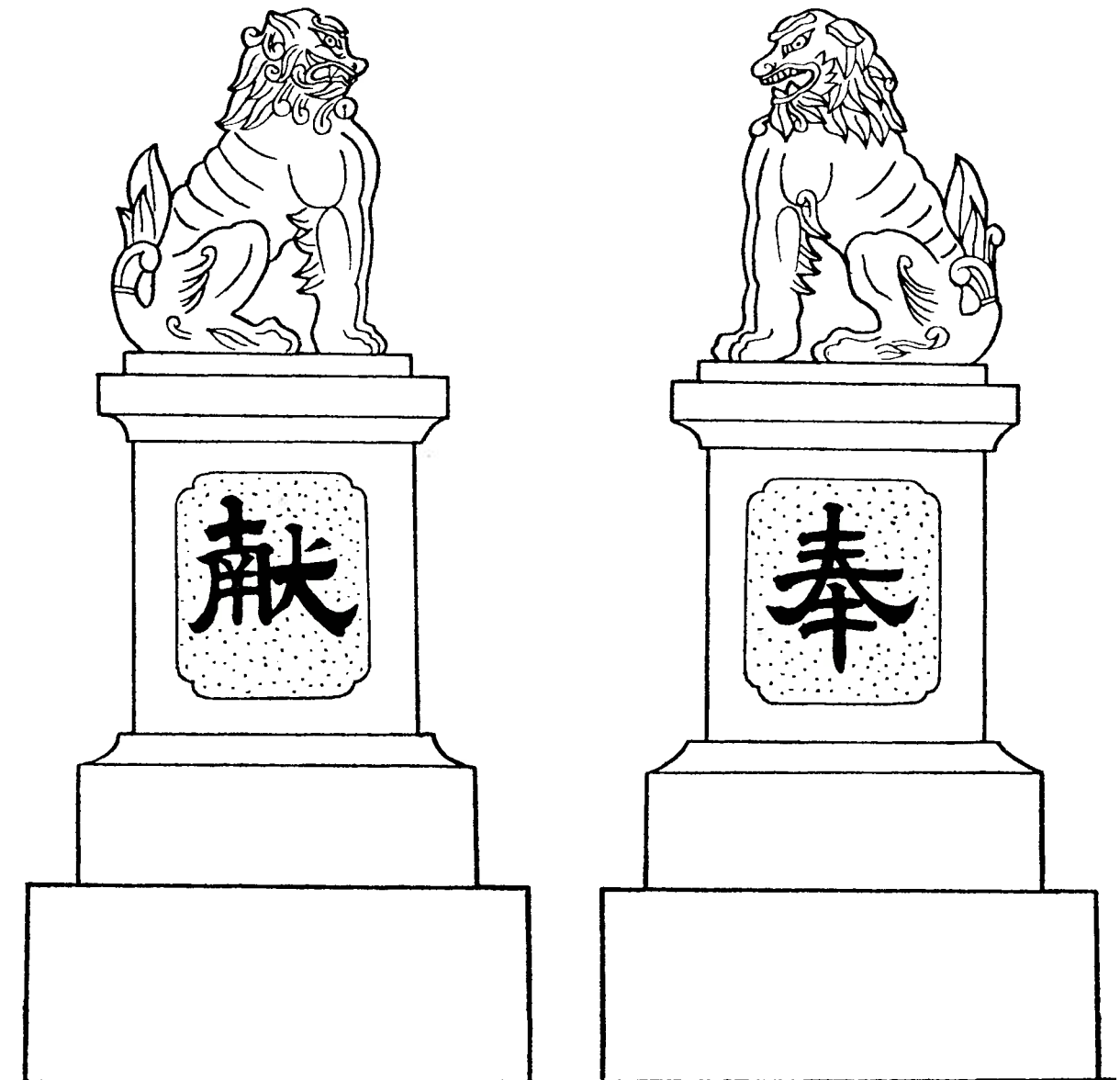
※ 狛犬台座の基本寸法は高さの70%が前巾、35%が奥行であるが
大きくなると1寸前後の違いは粗材の都合で違うことあり、一
応上記台座寸法のもと台石の寸法を出した。



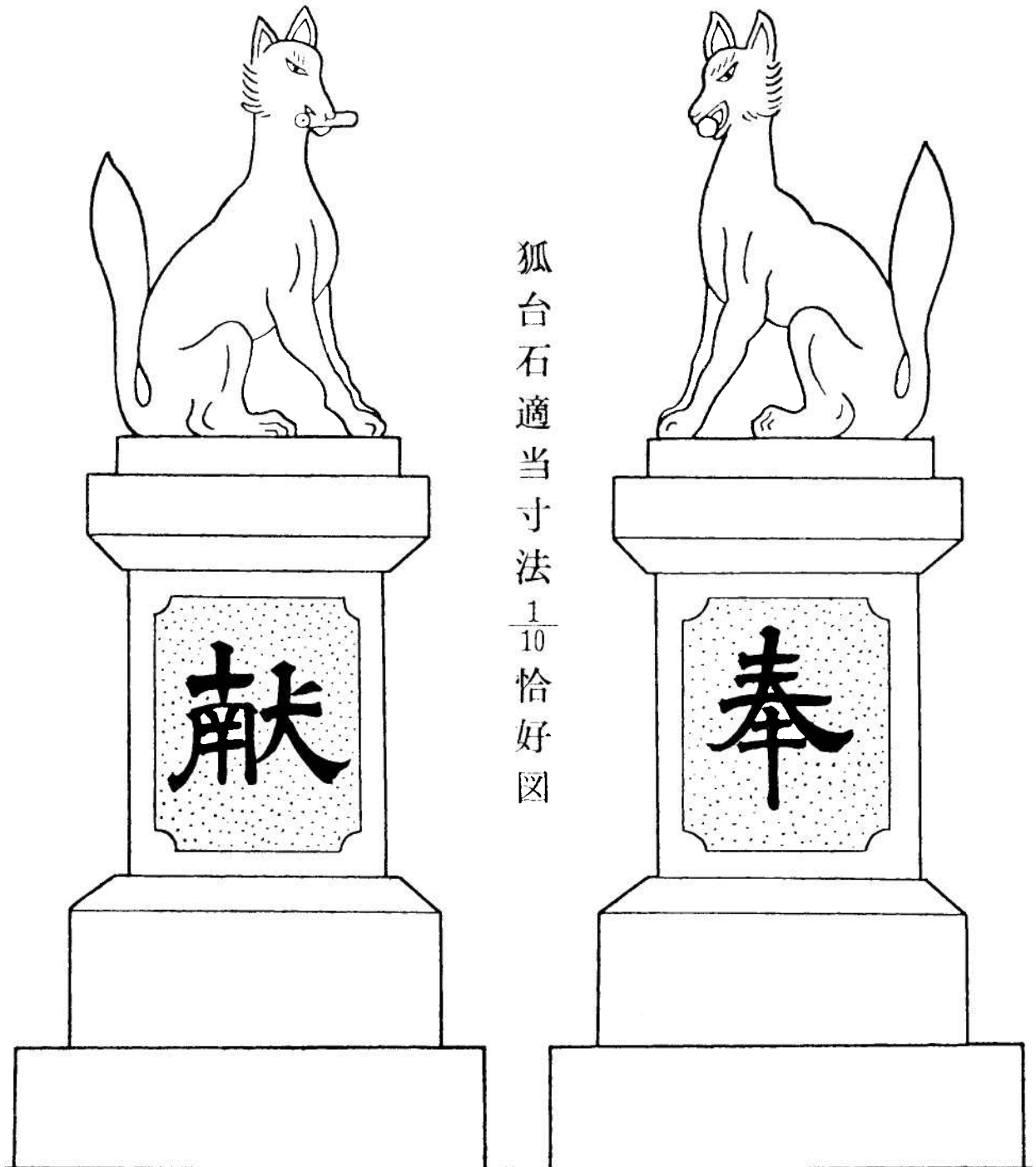
古代形狛犬台付図

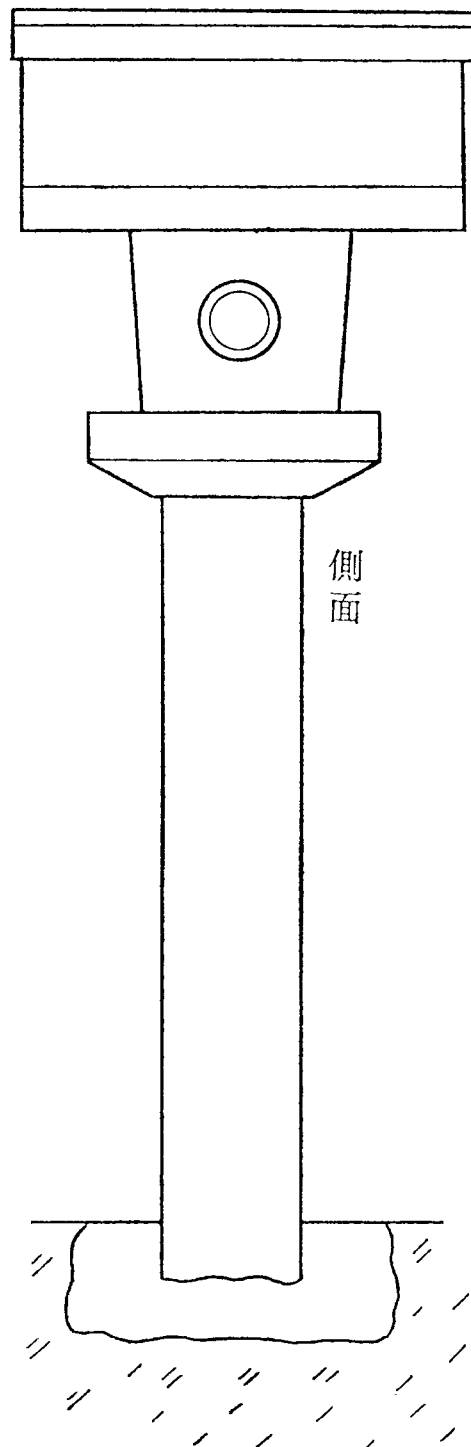
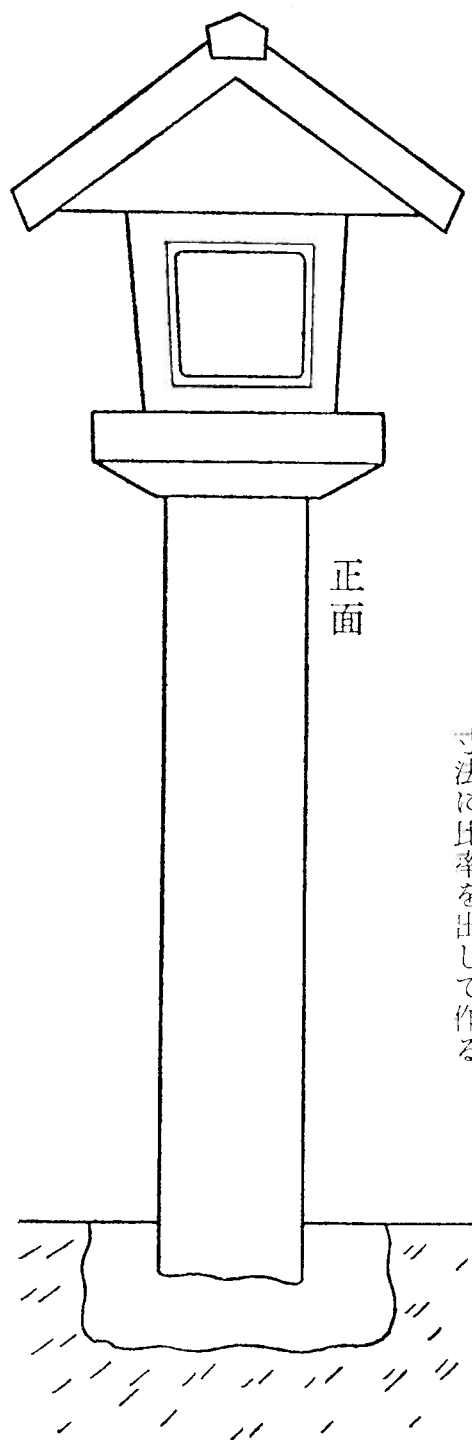
狛犬台座寸法	
2 尺	1.5尺 ~ 0.8尺
2.5 尺	1.8 ~ 1.0
3 尺	2.1 ~ 1.2

古代形の狛犬の台座寸法は並形狛犬の寸法
割より上記の如く各1寸前、奥共多い



※ 台坐寸法は狛犬寸法の一
落ちを目安とする。





神 灯 形

拾分の壺となっている故必要
寸法に比率を出して作る

神明形灯籠適当寸法

	玉		傘		火 袋		受		柱		地 輪	
	径	高	径	高	径	高	径	高	径	高	径	高
3.5尺	尺 角 0.40	尺 0.25	尺 角 1.30	尺 0.45	尺 角 0.65	尺 0.60	尺 角 1.00	尺 0.27	尺 角 0.50	尺 1.50	尺 角 1.05	尺 0.55
4 尺	0.45	0.30	1.45	0.50	0.70	0.65	1.10	0.30	0.60	1.70	1.15	0.60
4.5尺	0.50	0.35	1.70	0.55	0.80	0.75	1.25	0.35	0.70	1.70	1.35	0.65
5 尺	0.55	0.40	2.00	0.65	0.90	0.80	1.40	0.40	0.75	2.20	1.50	0.75

※ 高さの都合にて土台を一段下につけると高さ恰好が出る。

※ 神明形の称があるが角形墓前用に利用されている小形のものは
祠の前にも使用されている丸形よりは用途は大である。

